

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「スイコウ！サイコウ！」を合言葉に、生徒の「人間力」（自分に自信を持ち、多様な価値を認め、社会で生き抜く力）をはぐくむ学校をめざす。さらに、地域に根差した信頼される学校であることを目標とする。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して教育活動を実践していく。	
1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力	2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
3 心身ともに健康であり続ける力	

2 中期的目標

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成 （1）基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ ア 遅刻指導と身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図るとともに、遅刻総数を減らして基本的生活習慣を確立させる。 イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図ることで、規範意識をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断「あなたは毎朝遅刻をしないように意識をしていますか」の肯定率を R10 年度は90%以上を維持する。 (R5：91.7%、R6：92.9%、R7：92.3%) （2）学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ ア 学校行事・HR 活動を通して生徒の自己肯定感を高める。また、生徒会執行部の主体的な活動を支援することによって、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるようにする。 イ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め尊重していくことのできる精神をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断「学校では人権に関して学ぶ機会があると思いますか（在日外国人、障がい者理解、同和問題、ジェンダー等）」の肯定率を R10 年度は90%以上をめざす。(R5：87.1%、R6：83.1%、R7：89.9%) （3）生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ ア 系統的な進路指導を継続するとともに、1年生から3年生まで各学年に応じた計画的進学講習を実施することで生徒の進路実現を図る。 保護者向け学校教育自己診断「学校のカリキュラム（授業科目の配置等）は、子どもの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっている」の肯定率を R10 年度は90%以上を維持する。(R5：89.3%、R6：90.1%、R7：89.2%)	
2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成 （1）生徒の持つ学力を最大限に引き出す ア 相互授業見学の活用、公開授業や研究授業の実施、授業アンケートの分析、ICT の活用促進等のさらなる授業改善に組織的に取り組むことによって授業力の向上を図る。 イ 進路多様校として3年間を通した進路指導において、進学クラスの設置および看護、保育プログラムの開設や高大連携など充実したキャリア教育を実践する。 生徒向け学校教育自己診断「学校の授業は進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるようになっていると思いますか」の肯定率を R10 年度は90%以上を維持する。(R5：94.7%、R6：97.2%、R7：96.0%) （2）生徒の力を育成する様々な取組みの充実 ア 教育課程や総合的な探究の時間の活動実施を視野に入れて取組みを実施することで、「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、「思考力・判断力・表現力」等を育成する。 イ 進学クラスに対し、学力向上に向けた取組みを組織的に実施することによって、希望の大学へ合格する力を育成する。	
3 心身ともに健康であり続ける力の育成 ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。また、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用等を通じて、支援が必要な生徒により適切な形で支援・指導を行う。 生徒向け学校教育自己診断「学校に悩みを相談できる場があると感じていますか（先生や部屋）」の肯定率を R10 年度は80%以上をめざす。(R5：79.4%、R6：79.8%、R7：80.0%) イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。 ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。	
4 労働安全衛生管理体制の充実 （1）運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを定着させ、学校運営の機動性を高める。また、一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、分掌間、学年間で情報や目標を共有し、一体的となって取組みを充実させる。 イ 校内研修やミニ研修を年間を通して実施し、学びをとめず自身の研鑽とよりよい学校を創ることのできる集団をめざす。 （2）大阪府立学校の教職員に関する業務量・健康確保措置実施計画に基づき、働き方改革を推進する。 ア 校務運営について業務の見直しや ICT を用いて効率化を図る。 イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日を設定し、適切な指導・運営体制を構築し、勤務時間の適正化をはかる。 ウ ゆとり週間等の取組を通じて、全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、休暇を取得しやすい環境を整備する。 （3）地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る ア 学校行事や登下校指導の機会等を利用して保護者や地域住民との連携を強化し、引き続き開かれた学校づくりをめざす。 イ 効果的な広報活動（学校説明会、中高連絡会、出前授業、パンフレット作成、ホームページ・メールマガジン・SNS 等の発信）を引き続き実施する。 保護者向け学校教育自己診断「学校からの情報や連絡は、配付物やホームページ、メールマガジン等を通して把握している」の肯定率を R10 年度は85%以上を維持する。 (R5：83.6%、R6：86.1%、R7：84.7%)	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 8 年度値]	自己評価
1 自己を理解し、 他者を認め、 望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	ア、生活指導の基本方針を生徒および保護者に周知し、遅刻に対する意識の向上をめざす。 イ、生徒、保護者への連絡を密に行い、連携強化をはかるとともに、身だしなみ指導の徹底をめざす。 ウ、登下校指導を通し、生徒の交通マナーに関する意識を高める。 エ、「吹田スタンダード」を教職員の共通理解とし、授業マナー（ベル着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源 OFF 等）について、保護者・生徒への働きかけを継続する。 オ、情報モラルを身に付けられるよう、学年、教科横断的に連携し学習を実施する。	ア、総遅刻数（4 月～12 月）を前年度比減）とする。[6521 回] ・遅刻防止対策として早朝の挨拶週間を年 3 回実施する。[3 回] イ、教員による身だしなみ指導強化週間を年 3 回を維持する。[4 回] ・保護者向け学校教育自己診断「学校の頭髪指導について理解できる」の肯定率 90%以上をめざす。[86. 3%] ウ、生徒向け学校教育自己診断「あなたは登下校時に、交通ルール・マナーを守るように努めていますか」の肯定率 90%以上を維持する。[97. 3%] エ、生徒向け学校教育自己診断「先生は、生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずに注意していると思いますか」の肯定率 85%以上をめざす。[83. 4%] オ、生徒向け学校教育自己診断「あなたは授業や LHR、講演会などの機会を通して情報モラル等を身につけることができていますか」の肯定率 90%以上を維持する。[92. 4%]	
	(2) 人権意識をはぐくみ、様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	ア、生徒会執行部を中心に、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行い、それを実現できる校内体制を継続する。 イ、いじめアンケートの実施による実態把握と迅速な対応を行う。また、人権 HR 計画の更なる充実と円滑な実施を行う。 ウ、部活動の活性化を図り、新入生が入部しやすいように仮入部期間の設定をする。	ア、生徒向け学校教育自己診断「あなたは遠足、体育祭、文化祭などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか」の肯定率90%以上を維持する。[92. 7%] イ、生徒向け学校教育自己診断「学校は「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応していると思いますか」の肯定率 80%以上を維持する。[82. 7%] ウ、部活動ブログの定期的な更新を実施する。総更新回数年 70 回以上を維持する。[84 回]	
	(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ	ア、進路指導計画をもとに、進路ガイダンスを実施し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組めるよう進路指導を行う。 イ、進路多様校として、保護者に進路スケジュールなどの情報提供をし、共有する。 ウ、就職に強い吹田高校として、きめ細やかな就職指導を実践する。	ア、生徒向け学校教育自己診断「学校が提供している進路に関する情報や進路 HR は、あなたが将来の進路を考えるうえで役立っていると思いますか」の肯定率 90%以上を維持する。[93. 2%] イ、保護者向け学校教育自己診断「学校では、子どもの進路実現に役立つ情報提供が適切に行われている」の肯定率 85%を維持する。[84. 5%] ウ、就職希望生徒（学校幹旋）の卒業時の内定率 100%を維持する。[100%] ・就職希望生徒の学校幹旋について、校内ルールの見直しをはかり、全教職員の共通理解の定着のためミニ研修を年 1 回実施する。[新規]	

府立吹田高等学校

2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成	(1) 生徒の望む力をつけさせ、生徒の持つ能力を最大限に伸ばすことができる授業力、教科の指導力	ア、進路指導部、学年が連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進める。 イ、教員が授業アンケート結果を各教科や組織で分析し、「わかる授業」実践のため組織的な授業力向上の取り組みを実施する。授業を構想する力、授業を展開する力、授業を評価する力を身につける。 ウ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒1人1台端末等ICTを活用した授業等の取組みを一層進め、研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。	ア、保護者向け学校教育自己診断「学校では子どもの学力向上のための講習・補習などが適切に行われている」の肯定率80%以上をめざす。[74.5%] イ、教員間の相互授業見学週間を年2回、教員一人あたりの授業見学は年3回実施する。[授業見学週間2回] ・教職員向け学校教育自己診断「自分は他の先生の授業を見学・参考にし、授業改善に役立てている」の肯定率80%以上をめざす。[72.7%] ウ、電子黒板やICTのより良い活用のための教員向けミニ研修と情報発信を年3回以上実施[3回]	
	(2) 生徒の力を育成する、様々な取組みの充実	ア、各教科や総合的な探究の時間の内容を精選し、魅力ある授業を展開し生徒の理解度を高める。 イ、大学や地域機関との連携を継続し、学校全体の教育力を更に向上させる。 ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。 エ、1府立高校1姉妹校への取組	ア、生徒向け学校教育自己診断「あなたは授業中に私語や勝手な行動をすることなく集中して学習していますか」の肯定率90%以上を維持する。[91.6%] イ、高大連携講座の年間8回以上開催を維持する。[10回] ウ、教員向け学校教育自己診断「生徒の進路希望の実現に向け3年間の展望をもった指導となっている」の肯定率80%以上をめざす。[78.1%] エ、提携した姉妹校との交流参加生徒8名をめざす。[新規]	
3 心身ともに健康であり続ける力の育成	(1) 心身ともに健康であり続ける力を育てる	ア、生徒情報会議（みかん会議）等で課題のある生徒について情報共有し、早期対応に取り組む。 イ、日常の校内清掃活動の充実および校内美化を推進する。 ウ、安全点検を学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。南海トラフ地震を含む災害時の行動について学ぶ機会を持つ。	ア、保護者向け学校教育自己診断「生徒が保健室や生徒相談室などで気軽に教員に悩みを相談できる」の肯定率80%以上をめざす。[72.2%] イ、生徒向け学校教育自己診断「あなたは日頃、学校で清掃するなど、校内美化に努めていますか」の肯定率を75%以上を維持する。[78.2%] ・清掃チェックシートの活用と生徒保健委員会による美化活動週間を年2回実施する。[2回] ウ、教員向け学校教育自己診断「自分は、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、日常的に危機管理を意識した業務遂行している」の肯定率90%以上を維持する。[93.9%]	
4 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり	ア、チームで生徒と向き合う組織づくりのため、初任期からミドルリーダー、次世代の管理職まで系統的な育成を図る。 イ、吹田高校教職員が一体感をもって職務を遂行する。 ウ、教員の専門性を高めるとともに、資質・能力の向上をはかる。	ア、教員向け学校教育自己診断「学校経営・学校運営に関して、必要な研修が行われている」の肯定率80%以上を維持する。[87.9%] イ、教員向け学校教育自己診断「部会や教科会・担任会等の意見も踏まえた、運営委員会による意思決定の過程が定着している」の肯定率80%以上を維持する。[90.9%] ウ、メンターチーム（首席、ミドルリーダー、経験年数の少ない教員、希望者を募る）による研究授業等の校内研修年3回実施[3回]	

府立吹田高等学校

	(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する	ア、会議のペーパーレス化を進めるなどして校務のさらなる効率化をめざす。 イ、働き方改革について、ゆとり週間・月間の徹底に取り組む。（業務分担の適正化と見直し、在校等時間の縮減、教職員の健康管理と意識改革、部活動基本方針を遵守し活動時間の管理と休養日の正しい設定等）	ア、教員向け学校教育自己診断「校内メール等の利用で校務の効率化が図られている」の肯定率 90％以上を維持する。[90.9％] イ、毎週水曜日を一斉退庁日とし、年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。[新規、4 人] ・年間時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を前年度よりも減少させる。[新規、10 人]	
	(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	ア、地域住民や PTA 等の保護者との連携を強化する。 イ、広報活動の充実やホームページ等の情報発信機会の拡大。	ア、保護者向け学校教育自己診断「学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定率 80％以上をめざす。 [70.1％] ・保護者向け学校教育自己診断アンケートの回収率を 50％以上とする。[44.9％] イ、年 4 回の学校説明会及び校外での説明会において、中学生、保護者、中学校教員含め合計 1000 人の参加を維持する。[1331 人]	